

# 福 井 県

---

## 『ネクストふくい観光ビジョン（案）』に関する 県民パブリックコメント意見募集の結果

令和7年3月25日  
福井県交流文化部観光誘客課

今回「ネクストふくい観光ビジョン（案）」について、県民の皆様のご意見を募集したところ、次のようなご意見をいただきました。

県では、いただいたご意見をビジョン策定および今後の施策の参考とさせていただきます。

1 募集期間

令和7年2月17日（月）～3月11日（火）

2 提出件数

7件（2名）

3 提出されたご意見の概要および県の考え方

別添資料のとおり

4 問い合わせ先

福井県 交流文化部 観光誘客課 観光戦略グループ

TEL：0776-20-0380

FAX：0776-20-0381

E-mail：[kankou@pref.fukui.lg.jp](mailto:kankou@pref.fukui.lg.jp)

## 「ネクストふくい観光ビジョン（案）」パブリックコメント意見まとめ

No	意見概要	県の考え方
1	オーバーツーリズムの予防の具体策が明記されていない。オーバーツーリズムによる外国人犯罪、住環境や自然環境の破壊を懸念する住民の意見を聞いてほしい。 観光業に関わっていない住民としては、このビジョンの推進により平穏で安全な生活が脅かされるだけで何のメリットもない。	オーバーツーリズムの予防や対策については、状況によって柔軟な対応が必要であると考えています。今後、事業の実施にあたり県内の状況を注視し、他県のオーバーツーリズムへの対応も確認しながら、必要に応じた対策を講じていきます。また、様々な方からのご意見を伺うよう努めていきます。
2	本文89～90ページ目で「観光業でない県民は不幸である」と、雑なアンケートから雑に決めつけている。県行政による明確な職業差別であり、不幸か幸せかを観光業だけを軸に決めつけているのはおかしい。	どちらのアンケート結果も観光と幸福度の相関関係を示したものであり、幸不幸を決めているものではありません。 観光業以外の県民のみなさまにも広く観光に関わっていただくことで、地域の食や歴史、文化などへの愛着と誇りが高まり、さらには県民のみなさまの幸せにもつながると考えています。
3	優劣感情に敏感な地から訪れる人に対して「幸せになれますよ」とするのは、どこか“上から目線”に受け取られても仕方のない認識であり、反感の反応はなくとも、注意が必要ではないでしょうか。	本県を訪れた旅行者に、「また訪れたい」と思ってもらうためには、本県での滞在中に少しでも多くの「幸せ」を感じてもらい、本県を愛着ある特別な場所と感じてもらうことが必要だと考えています。今後誘客を行う際には、上から目線と受け取られないよう表現に留意していきます。
4	県がここまで「稼ぐ力」を観光業界に呼びかける姿勢になったのは、新幹線の福井延伸開業から間もなく1年、他県の観光地ではオーバーツーリズムが起きているのに、福井では期待されたほどに観光収益が挙げられていないことへの焦りのような要因もあるのではないのでしょうか。	観光業は裾野の広い産業であり、稼ぐ力を高めることは、県内産業全体の好循環につながるのと同時に、旅行者がより満足するコンテンツの提供につながると考えています。北陸新幹線開業により、多くの方々にお越しいただいており、この開業効果を最大化・持続化させるために、稼ぐ力をこれまで以上に高めたいと考えています。
5	優先の順序付けが必要ではないのか。	本ビジョンで示している戦略の柱については、本県の観光を推進する上で特に重要な柱を挙げていますので、順序付けはしていませんが、取組みの方向性や実施すべき施策の中で重点項目や重点施策を示しており、それらにつきましては優先して実施していきます。
6	今の政策が、情勢からみて常に妥当かどうか、地元でも検討・判断をする機能を、ビジョンのどこかに持っておくべきではないでしょうか。	令和7年度以降は県内外の有識者で構成された「観光ビジョン推進懇話会」を設置し、各施策と目標の進捗を点検していきます。
7	「国別・需要別のインバウンド対応力を使い分けられるよう、分析力を高める」とか「国際情勢の変化に対応したビジョン検討ワーキング会議を随時開く」といった、関係業界にも冷静な戦略を促せるような有識の機能を、ビジョンの中にも位置づけながら、人材を作っていくことではないのでしょうか。	また、インバウンド誘客についても、知見や豊富な実績を持つ外部専門家に本県の状況を調査・分析してもらった上で、本県のインバウンド誘客に向けた企画立案・実行につなげていきます。